

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370037

研究課題名(和文) 遺稿調査にもとづくジャック・デリダの脱構築思想の生成史の解明

研究課題名(英文) The elucidation of the formation of the deconstructive thought of Jacques Derrida based on the research of his posthumous manuscripts

研究代表者

亀井 大輔 (KAMEI, Daisuke)

立命館大学・文学部・准教授

研究者番号：80469098

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：フランスの脱構築の哲学者ジャック・デリダの思想の生成過程を解明するため、アメリカでの遺稿調査、著作や死後に刊行された講義録の翻訳、国内外での会議参加や研究者招聘による研究者間の活発な交流、論集や特集号への論考の寄稿をおこなった。とりわけ期間中の2014年はデリダ没後10年にあたったため、『思想』や『現代思想』でのデリダ特集や、東京でのデリダ・シンポジウムの企画に積極的に参加し、その後も継続的な成果発表をおこなった。

研究成果の概要(英文)：In order to elucidate the process of formation of the thought of Jacques Derrida, who is a French philosopher known for the thought of "deconstruction," we did several research activities as below during the period: research of his posthumous manuscripts in the US, translation of his books and his seminars into Japanese, active exchanges between researchers by participation in the meetings at home and abroad and by invitation of foreign researchers, contribution to the collection of essays and special issue of journals, and so on. Especially in 2014, 10th anniversary of Derrida's death, we actively participated in the projects of special issues of Derrida in "Shiso" and "Gendaishiso", and of the symposium of Derrida in Tokyo, and in subsequent years we continuously brought out our fruits of research.

研究分野：哲学

キーワード：国際研究者交流 フランス：アメリカ 脱構築 哲学 現代思想

1. 研究開始当初の背景

(1) ジャック・デリダの脱構築思想は哲学や文学のみならず、多くの学問領域に重要な影響を与えてきた。2004年に彼が死去した後、デリダをめぐる状況は進展している。講義録の刊行、多様な刊行物、デリダ研究の新たな動向、国際学会 Derrida Today の開催、脱構築研究会の発足などである。

(2) 研究代表者はこれまで、デリダの思想形成の歩みをその初期から綿密に辿り、その意義と可能性をとりわけフッサール現象学との関係に注目して解明する研究を進めてきた。2008年以降、カリフォルニア大学アーヴァイン校の図書館に収蔵されているデリダの遺稿資料の調査を断続的におこなってきた。以上の研究活動が目指すのは、デリダの脱構築思想の形成過程をその全体にわたって解明することである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、現代フランスの哲学者ジャック・デリダが「脱構築」の思想を生成させていった過程を解明すべく、米仏にて未公開資料の収集・整理をおこない、デリダ思想の全貌把握に向けた共同研究を国内外の研究者との連携を通じて展開することである。本研究によって、デリダ思想における現象学や存在論、形而上学、時間論、言語論、歴史論、贈与論、生死論、政治論、動物論といった諸相を明らかにし、さらにはハイデガー、レヴィナス、フロイト、ニーチェ、ブランショ、ヘーゲルといった他の思想家との関係をも解明することができる。カリフォルニア大学アーヴァイン校とフランスの現代出版資料研究所(IMEC)でのデリダの未公開の遺稿、草稿、書簡などの実地研究を通じて、国内外のデリダ研究を先導する画期的な成果を目指す。

3. 研究の方法

(1) 亀井・西山・宮崎の3名編成で年に一度、カリフォルニア大学アーヴァイン校での遺稿調査をおこなう。また、亀井・西山は年に一度、フランス・カーンの現代出版資料研究所(IMEC)での遺稿調査をおこなう。デリダの思想形成を効果的に調査・研究するため、時期を初期・中期・後期に区分し、それぞれを亀井・宮崎・西山が責任を負う形で活動を進めていく。

(2) 研究を円滑に遂行するため、デリダの思想形成を三つの時期に分け、次の点を明らかにする。

初期(1950~1970年代前半): フッサール研究を出発点として脱構築の思想が形成されていく時期について、講義原稿の詳細な調査にもとづいて、ハイデガーやフロイトやヘーゲルとの関係などに焦点を当てることで、初期デリダの思想形成を明らかにする。

中期(1970年代後半~1980年

代): 『絵葉書』や『海域』などが書かれ、文学や精神分析とも関係を結んでいったこの時期における脱構築思想の変化を描き出す。またアメリカでの定期的な教育活動を開始した時期でもあり、脱構築思想のアメリカにおける受容史において脱構築思想の波及の動向も解きほぐす。

後期(1990年代以降): 大きく「責任」をテーマとした講義が展開され、『法の力』や『マルクスの亡霊たち』などが書かれ、脱構築が正義のテーマと結びつく時期を解明する。

以上の三点を明確化し、その成果を総合してデリダ思想の歩みを克明に描き出す。

4. 研究成果

(1) 2014年はジャック・デリダの没後10年という節目の年であったため、国内外で開催されたシンポジウムやワークショップ(ニューヨーク・フォードム大学でのデリダ・トゥデイ第4回大会や、パリ、上海での国際会議など)に参加し、日本のデリダ研究を国内外でネットワーク的に展開した。早稲田大学での4日間にわたるデリダ没後10年シンポジウムでは、アメリカでのデリダ研究の第一人者であるロドルフ・ガシェ氏を招聘し、講演会を開催した。また2013年に刊行されたデリダの1964-65年度の講義原稿『ハイデガー 存在の問いと歴史』についての報告を合同ワークショップ「デリダ×ハイデガー×レヴィナス」にておこない、日本現象学会にて同資料を主題とするワークショップ企画を応募し開催した(亀井)。また成果の公表としては、岩波書店『思想』において総特集「10年後のジャック・デリダ」が編集され、そこにデリダについての論考や共同討議を発表した(宮崎、西山、亀井)。同じく『現代思想』のデリダ特集号「デリダ 10年後の遺産相続」には、上記『ハイデガー』講義や『獣と主権者』講義などについて考察を展開した論考を発表した(西山、宮崎、亀井)。さらに研究活動の一環として、デリダの2001-2002年度の講義原稿である『獣と主権者1』の翻訳をおこない、刊行した(西山、亀井)。また、同講義の内容解説を中心とするワークショップを開催した。同じく『哲学への権利I』の翻訳を刊行した(西山)。

(2) 2015年度は、前年度のデリダ没後10年におけるさまざまな研究活動の成果をふまえて、引き続きデリダ研究をネットワーク的に展開するために、国内外における学会やシンポジウムにて成果を発表した。海外では、10月に「大学か反-大学か?」(フランス・パリ)、3月に「日本におけるフレンチ・セオリー」(フランス・パリ)などに参加し、デリダに関する発表をおこなった(西山)。国内では、10月に関西哲学学会シンポジウム「真理論」においてデリダの真理論をめぐる発表をおこない(亀井)、12月にワ

ークショップ「ドゥルーズ×デリダ」を開催し、デリダについての発表およびドゥルーズとの関係をめぐる討議をおこなった。また、海外の研究者との連携を進め、6月にはフランスのデリダ動物論研究の第一人者パトリック・ロレット氏の講演会を国内4カ所において開催した(西山、亀井)。その発表の翻訳は各誌に掲載されている。また、12月には同じくブルガリアにおけるデリダ研究の第一人者ダリン・テネフ氏の講演会を立命館大学において開催した(亀井)。また、昨年引き続き翻訳や論考の発表も積極的におこなった。まず、昨年第1巻が翻訳刊行されたデリダの著書『哲学への権利』第2巻の翻訳刊行をおこなった(西山、宮崎)。さらに、齋藤元紀編『連続講義 現代日本の四つの危機 哲学からの挑戦』(西山、宮崎)、『ふらんす』2015年11月号(特集ジャック・デリダ)(西山、宮崎)、首都大学東京紀要『人文学報』第511号(デリダ特集)(西山、亀井)に論考や翻訳を掲載し、高橋哲哉著『デリダ 脱構築と正義』文庫版に解説を寄せた(宮崎)。

(3)最終年度にあたる2016年度は、6月にロンドンで開催された国際会議 Derrida Today に参加し(亀井、西山、宮崎)、海外のデリダ研究者との交流を継続し、宮崎は発表「Towards Another Aristotelian Tradition of Friendship: Derrida and Agamben」をおこなった。西山は10月にローマでのデリダレヴィナスについての会議で発表「Politiques du mensonge chez Derrida et Levinas」をおこなった。亀井は9月にカリフォルニア大学アーヴァイン校での2週間のデリダ遺稿調査をおこなった。他方、11月にフランスの研究者ジゼル・ベルクマン氏を招聘し、立命館大学にて講演「近接と対立 モーリス・ブランショ『明かしえぬ共同体』の試練にかけられるジャック・デリダとジャン=リュック・ナンシー」を開催した(亀井、西山)。また今年度は、研究期間の成果として、論集『終わりなきデリダ』(編者に西山、執筆者に西山、宮崎、亀井)を刊行することができた。亀井は論文「真理と痕跡 デリダとハイデガーの アレーティア」を『アルケー』に掲載した。さらに、デリダの最終セミナーとなる講義録『獣と主権者2』を翻訳刊行(西山、亀井)、7月には本書をめぐるワークショップ、およびハイデガー研究会との共催による動物論についてのワークショップも開催した。西山はデリダ『嘘の歴史』、パトリック・ロレット『ジャック・デリダ 動物性の政治と倫理』も翻訳刊行した。

以上の成果によって、遺稿調査や講義録の翻訳などを基盤としつつ、デリダの脱構築思想の形成過程の解明に寄与することができた。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計25件)
フランソワーズ・ダスチュール(宮崎裕助・松田智裕訳)「差異の問い デリダとハイデガー」、『知のトポス』、査読有、12号、2017年、pp.91-131
<http://dSPACE.lib.niigata-u.ac.jp/dspace/d/handle/10191/47232>

ジゼル・ベルクマン(亀井大輔・市川博規訳)「近接と対立 モーリス・ブランショ『明かしえぬ共同体』の試練にかけられるジャック・デリダとジャン=リュック・ナンシー」、『人文学報』、査読有、513-15号、2017年、pp.181-202
<http://hdl.handle.net/10748/00009019>

亀井大輔、「真理と痕跡 デリダとハイデガーの アレーティア」、『アルケー』、査読無、24号、2016年、pp.15-28

Yuji Nishiyama, "After the End of the World: in an Apocalyptic Tone by Jacques Derrida", *The Sublime and the Uncanny* (UTCP Booklet 27), 査読無、27号、2016年、pp. 117-131

フランチェスコ・ヴィターレ(西山雄二・小川歩人訳)「テキストと生物 生物学と脱構築のあいだのジャック・デリダ」、『人文学報』、査読無、512号、2016年、pp. 167-190
<http://hdl.handle.net/10748/7599>

亀井大輔、加藤恵介、長坂真澄「初期デリダとハイデガー デリダの『ハイデガー』講義(1964-65)をめぐる」、『現象学年報』、査読無、31号、2015年、pp. 65-71

Daisuke KAMEI, « La démocratie et la question de l'autre chez Derrida et Rancière », 『人文学報』、査読無、511号、2015年、pp.21-30
<http://hdl.handle.net/10748/7041>

ダリン・テネフ(横田祐美子・松田智裕・亀井大輔訳)「デリダにおける贈与と交換 (Derridative)」、『人文学報』、査読無、511号、2015年、pp. 163-187
<http://hdl.handle.net/10748/7048>

西山雄二「脱構築の約束 生き延びるジャック・デリダ」、『ふらんす』、査読無、90-11号、2015年、pp.12-14

ジャン=クレ・マルタン(西山雄二・大江倫子訳)「ドゥルーズとデリダ、両者の運動は同じではない」、『人文学報』、査読無、511

号、2015年、pp. 31-42
<http://hdl.handle.net/10748/7042>

パトリック・ロレッド(西山雄二・小川歩人訳)「動物は人間のように愚かであることができるか デリダとドゥルーズをめぐる「超越論的愚かさ」について」『ドゥルーズ 没後20年新たなる転回』、査読無、2015年、pp. 172 - 181

宮崎裕助「書き過ぎる、いや、書き足りない 過剰書字学者ジャック・デリダの肖像」『ふらんす』、査読無、90 - 11号、2015年、pp. 15 - 16

亀井大輔「自己伝承と自己触発 デリダの『ハイデガー』講義(1964-1965)について」『現代思想』査読無、43/2号、2015年、pp. 173-187

西山雄二「超 主権的な Walten の問いへ ジャック・デリダ『獣と主権者』をめぐる覚書」『現代思想』査読無、43/2号、2015年、pp. 139-153

西山雄二「ジャック・デリダ アーカイヴの未来へ 没後10年をめぐる動向」『思想』、査読無、1092号、2015年、pp. 137-141

Yuji Nishiyama, « Quelle voix pédagogique reste-t-il des livres de Jacques Derrida ? » Quadranti - rivista internazionale di filosofia contemporanea, 査読無、2-2号、2015年、pp. 147-161

宮崎裕助「呼びかけとしての友愛、哀悼としての友愛 ジャック・デリダの友愛論におけるアリストテレス的伝統について」、『現代思想』、査読無、43-2号、2015年、pp. 256-267

亀井大輔「目的論における終末論の裂目」、『思想』、査読無、1088号、2014年、pp. 124 - 138

亀井大輔「デリダとメルロ＝ポンティにおける制度(化)の問題」、『メルロ＝ポンティ研究』、査読無、18号、2014年、pp. 98 - 108
<http://doi.org/10.14937/merleaujp.18.98>

西山雄二「世界の終わりの後で 晩年のジャック・デリダの黙示録的語調について」、『思想』、査読無、1088号、2014年、pp. 105-123

²¹ 宮崎裕助「国家創設のパフォーマティヴと署名の政治 ジャック・デリダの「アメリカ独立宣言」論」、『思想』、査読無、1088号、2014年、pp. 64-87

〔学会発表〕(計27件)
亀井大輔「エコノミーと戦略 デリダの脱構築における資源(リソース)の問題」、間文化現象学ワークショップ「エコノミーと間文化性」、2017年03月16日、立命館大学(京都府・京都市)

宮崎裕助「家族への信 デリダと「きずな」の問い」、家族の「きずな」を哲学する 私たちをつなぐものはどこにある?、2016年11月18日、新潟大学(新潟県・新潟市)

Yuji Nishiyama, "Politiques du mensonge chez Derrida et Levinas", DERRIDA -LEVINAS Une alliance en attente de politique (招待講演)(国際学会)、2016年10月17日~2016年10月18日、ローマ(イタリア)

亀井大輔「吉永和加著『他者 の逆説:レヴィナスとデリダの狭き道』コメント」、合評会:吉永和加著『他者 の逆説:レヴィナスとデリダの狭き道』(招待講演)、2016年09月03日、同志社大学(京都府・京都市)

宮崎裕助「人間/動物のリミトロフィー ジャック・デリダによるハイデガーの動物論講義」、動物をめぐる形而上学的思考の行方 ハイデガーとデリダ、2016年07月31日、立正大学(東京都・品川区)

西山雄二・亀井大輔(解説)、宮崎裕助(コメント)「『獣と主権者』を読む」、Workshop『獣と主権者』を読む 2016年07月30日、東京大学(東京都・目黒区)

Yusuke Miyazaki, "Towards Another Aristotelian Tradition of Friendship: Derrida and Agamben", 5th DERRIDA TODAY Conference(国際学会)、2016年06月09日、ロンドン(イギリス)

Yuji Nishiyama Jacques Derrida au Japon French Theory au Japon(招待講演)(国際学会) 2016年03月19日 Maison Heinrich Heine, Paris(France)

亀井大輔「デリダにおける生命の問いに向けて」、『ドゥルーズとデリダ(招待講演)』、2015年12月20日、グランフロント大阪(大阪府・大阪市)

宮崎裕助「「愚かさ」の差異と分有 人間/動物の超越論的問いをめぐるデリダのドゥルーズ批判」、『ドゥルーズとデリダ(招待講演)』、2015年12月20日、グランフロント大阪(大阪府・大阪市)

亀井大輔「真理と痕跡 デリダとハイデガーの「アレーティア」」関西哲学会第68回大会(招待講演) 2015年10月25日、京都大学(京都府・京都市)

Yuji Nishiyama, « La crise de l'universite et la question des Humanities dans Jacques Derrida », L'universite sans condition・Universite ou anti-Universite? (招待講演)(国際学会) 2015年10月14日~15日、Maison Heinrich Heine, Paris(France)

亀井大輔「「デリダへの応答」をめぐって」レヴィナス研究の現在 小手川正二郎著『蘇るレヴィナス 全体性と無限』読解』とともに (招待講演) 2015年8月7日、京都大学(京都府・京都市)

宮崎裕助「デリダ研究の最前線 「生・死」の哲学にむけて」ゲンロンカフェ、2015年02月24日、ゲンロンカフェ(東京都・品川区)

亀井大輔、西山雄二「Workshop 『獣と主権者I』を読む」Workshop 『獣と主権者I』を読む、2015年02月22日、東京大学(駒場キャンパス)(東京都・目黒区)

西山雄二「ジャック・デリダ 思考の勇氣」ジャック・デリダ 思考の勇氣」映画上映 2015年02月20日、日仏会館(東京都・渋谷区)

Yuji Nishiyama, "Institution, universite, Education" Colloque: Penser avec Derrida, ou qu'il soit 2014年12月11日、2014年12月13日、カーン(フランス)

西山雄二「ポスト実存主義者としてのジャック・デリダ」ワークショップ「サルトルxデリダ」2014年12月06日、立教大学(東京都・豊島区)

亀井大輔「デリダの『存在と時間』読解と歴史の問題」日本現象学会第36回研究大会、ワークショップ1、2014年11月30日、東洋大学(白山キャンパス)(東京都・文京区)

亀井大輔「自己触発と自己伝承 デリダの『ハイデガー』講義をめぐって」ワークショップ「デリダxハイデガーxレヴィナス」2014年10月11日、早稲田大学(戸山キャンパス)(東京都・新宿区)

21 Yuji Nishiyama, « Quelle voix pedagogique reste-t-il des livres de Jacques Derrida ? », Colloque international : Derrida a venir, Questions

ouvertes, 2014年10月01日~2014年10月04日、パリ(フランス)

22 Yuji Nishiyama, « Apres la fin du monde: d'un ton apocalyptique de Jacques Derrida », International Conference: Commemorating the 10th anniversary of Jacques Derrida's death, 2014年09月27日 上海(中国)

23 宮崎裕助「ミメーシス、エコノミメーシス カント/デリダにおけるミメーシス論の脱構築」EconoMimesis R&D ワークショップ#3「エコノミー・ミメーシス・エコノミメーシス」2014年05月17日、日本女子大学(目白キャンパス)(東京都・文京区)

〔図書〕(計12件)
ジャック・デリダ(西山雄二訳)、未來社、『嘘の歴史 序説』、2017年、106頁

パトリック・ロレッド(西山雄二、桐谷慧訳)、勁草書房、『ジャック・デリダ 動物性の政治と倫理』2017年、160頁

齋藤元紀、澤田直、渡名喜庸哲、西山雄二編、亀井大輔、西山雄二、宮崎裕助、法政大学出版局『終わりなきデリダ』、2016年、406頁

Yuji Nishiyama, Lambert, *Imagining an Abandoned Land, Listening to the Departed after Fukushima*, 2016年、100頁

ジャック・デリダ(西山雄二、亀井大輔、荒金直人、佐藤嘉幸訳)、白水社、『獣と主権者』、2016年、426頁

ジャック・デリダ(西山雄二、宮崎裕助、立花史、馬場智一、藤田尚志、津崎良典訳)みすず書房、『哲学への権利2』2015年、480頁

齋藤元紀編、西山雄二、宮崎裕助、牧野英二、信原幸弘、梶谷真司、小野原雅夫、魚住孝至、齋藤慶典、森一郎、高田珠樹、澤田直、矢野久美子、講談社、『連続講義 現代日本の四つの危機 哲学からの挑戦』、2015年、352頁(67 88、285 310)

本橋哲也、植村邦彦、市野川容孝、齋藤幸平、佐々木隆治、溝口大助、明石英人、松本卓也、永野潤、大貫隆史、河野真太郎、宮崎裕助、前川真行、山本圭、隅田聡一郎、渋谷望、西亮太、鈴木宗徳、伊豫谷登士翁、清水知子、他、堀之内出版、『労働と思想』2015年、512頁(249-272)

谷徹、上田閑照、ベルンハルト・ヴァルデ
ンフェルス、亀井大輔、神田大輔、クラウス・
ヘルト、カレル・ノヴォトニー、ミハエル・
シュタウディゲル、青柳雅文、ローズマリー・
ラーナ、藤田りん子、マウロ・カルボーネ、
ベク・ジン、ピエール・ロドリゴ、加國尚志、
文理閣、『間文化性の哲学』2014年、285頁
(38-54)

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()

ジャック・デリダ (西山雄二、郷原佳以、
亀井大輔、佐藤朋子訳) 白水社、『獣と主権
者Ⅰ』、2014年、500頁(1-118, 287-500)

ジャック・デリダ (西山雄二、立花史、馬
場智一訳) みすず書房、『哲学への権利Ⅰ』、
2014年、310頁(1-168)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

亀井 大輔 (KAMEI, Daisuke)
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号：80469098

(2)研究分担者

西山 雄二 (NISHIYAMA, Yuji)
首都大学東京・人文科学研究科・准教授
研究者番号：30466817

宮崎 裕助 (MIYAZAKI, Yusuke)
新潟大学・人文科学・教育科学系・准教授
研究者番号：40509444